

小曽根さん白澤さんコラボ実現 NHK 番組の公開収録

世界的なジャズピアニスト小曽根真さんと、歌手白澤みさきさんの共演が実現しました。二人は、6月29日に大槌町中央公民館で開かれたNHKの公開収録「岩手 大槌町 よみがえれ!ふるさとの記憶」に出演し、小曽根さんのピアノで白澤さんが歌いました。曲は、言うまでもなく「ひよっこりひょうたん島」の主題歌です。

公開収録はNHKが中央公民館で開いていた「いわて失われた街模型復元プロジェクト展」に合わせて企画され、NHKの桜井洋子アナウンサーの司会で進行しました。

小曽根さんは故井上ひさしさんと交流があったことから、震災後、大槌町で演奏会を開き、被災者を励ました。町に正午に流れる「ひよっこりひょうたん島」の曲は、小曽根さんがアレンジしました。

一方、白澤さんは大槌中学校3年生。小学校6年生の時に震災に遭い、友人、知人を失いました。2012年、デビュー曲「故郷」で、日本有線大賞新人賞、日本レコード大賞新人賞を受賞しました。

公開収録で小曽根さんは「阪神大震災を体験し、東日本大震災は他人事ではなかった。大槌町では復興に向かうエ



ネルギーが磁場となって感じられる」と話し、白澤さんは「避難所を巡って民謡を歌い、被災者を励ました。歌の力を感じました」と語りました。

公開収録ではNHKが過去に撮影した大槌町の映像が上映されました。秋サケ漁、祭り、突きん棒漁、お盆の風習である松あかし……。昔懐かしい光景が写し出されました。最後に、白澤さんが「故郷」を歌い、小曽根さんのピアノでNHKの人形劇「ひよっこりひょうたん島」の主題歌を、白澤さんと会場の参加者全員で歌いました。

大槌と花巻を結ぶ友情の歌声 大槌町で「うたっこの集い」

花巻市と大槌町のお年寄りによる初の「うたっこの集い」が6月14日、大槌町内の町中央公民館で開かれました。約250人の参加者は、それぞれの思いを込めながら青春時代の歌を歌い、会場には友情の輪が広がりました。

主催したのは花巻市のシニア大学自治会。花巻から貸し切りバスで114人が参加し、大槌町老人クラブ連合会のメンバー120人が出迎えました。

大槌町老人クラブ連合会事務局長で、花巻市内の、みなし仮設住宅に住む小林敏子さん(70)が、相互交流のきっかけを作りました。

花巻市のシニア大学で震災時の体験を講演し、シニア大学自治会で年1回開いている「歌って広場」に参加。故郷の被災者を励ますために、大槌町でも開催したいと考えて提案し、実現しました。

歌った青春時代の歌は16曲。「青い山脈」「ああ上野駅」「四季の歌」「花は咲く」……。涙を流しながら歌うお年寄りの姿も目立ちました。

歌い終わると、大槌町老人クラブ連合会長と花巻市シニア大学自治会長との間で、年1回、文化交流事業をする合



意書が交わされました。

花巻からの参加者は、それぞれが庭植えの花を持ち寄り、大槌町からの参加者にプレゼントしました。これらの鉢には、「花巻市民の庭は大槌につながっていますよ」というメッセージが込められています。

大槌町の仮設住宅に住む上田昇さん(76)は「素晴らしい集いだった。腹の底から歌った。歌で心が一つになった」と語ってくれました。

新山高原の展望台に観光望遠鏡 くっきりと「ひょうたん島」

大槌町の新山高原の展望台に6月20日、新しい観光望遠鏡が設置されました。大槌湾から早池峰山まで360度のパノラマの光景が楽しめます。

旧役場に保管されていた古い望遠鏡は津波で流され、新山高原を含めた釜石、遠野、大槌2市1町にまたがる高原で風力発電事業を展開するユーラスエナジー釜石から寄贈を受けました。

観光望遠鏡は各種光学機器を製造、販売する京都市内の「COVAC」製です。倍率は15倍。無料で見られます。梅雨の晴れ間のこの日、大槌町商工労政課の職員が、町役場から望遠鏡を運び、標高1,000メートルの展望台に設置しました。

東方に大槌湾や鯨山、西方に早池峰山、薬師岳を眺めることができます。望遠鏡をのぞいて見ました。大槌湾に浮かぶ蓬菜島がくっきりと見えました。湖に浮かぶ孤島のように見えました。



新山高原は大槌町の西方にあります。つつじの群生地、わが国、最大規模の風力発電施設を間近に見学することができます。震災前、つつじが見ごろの6月中旬には新山高原まつりが開かれ、観光客でにぎわっていました。

観光望遠鏡は、期間を限って利用され、冬場は役場に保管されていました。震災当時、役場は津波に襲われ、望遠鏡は流失しました。大釜範之・大槌町産業振興部長は「望遠鏡を設置することで新山高原の魅力が一層、増すことでしょう」と話しています。

山梨の寺院が赤浜に神輿寄贈 3年ぶりに例大祭復活へ

大槌町赤浜にある八幡神社に7月14日、山梨県富士川町の善国寺から2台の神輿が寄贈され、奉納式が催されました。神社には、もともと神輿はなく、新たなシンボルができました。地域の人たちは、今年秋に3年ぶりに開く神社の例大祭に意欲を燃やしています。

神輿は大、小一対です。大は高さ1.5メートルで1メートル四方、小は高さ1メートルで80センチ四方。漆塗りの屋根と、四方を囲む鳥居が特徴です。

善国寺の檀家だった職人が造りかけていた神輿を寺が譲り受け、受け入れ先を探していたところ、山梨県早川町が親交のある大槌町を紹介し、実現しました。神輿を保管する倉庫も神社の境内にできました。

奉納式では、神輿を担いだ町民が、旧赤浜小学校の校庭跡を出発。陸中弁天虎舞などの郷土芸能とともに海岸を練り歩き、大槌湾に入ってお清めをし、八幡神社で式典をしました。



神輿は10月の例大祭で地区内を練り歩くことになりません。式典実行委員長の岡本大作さん(64)は「これで神社の例大祭を震災後、初めて開くことができる」と喜んでいました。

奉納式に参加した早川町からの関係者は「大槌町の方々が、少しでも元気になってくれればうれしい」と語りました。